

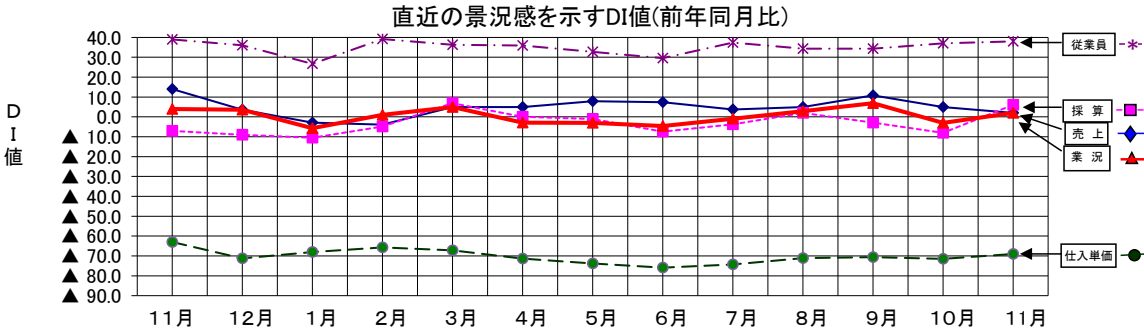
【11月の概要】

「採算」は大幅に改善するも「売上」は改善の動きに一服感
人手不足が企業活動を制限し、売上機会の損失につながっている

直近の景況感を示すDI値は、「採算」が14.0ポイント、「業況」が5.0ポイント、「仕入単価」が2.5ポイント改善。なかでも「採算」は特に大幅に改善しており、3か月ぶりにプラス水準へと転じた。一方で「売上」は▲3.0ポイントと改善の動きに一服感が見られた。「従業員」は人手不足局面へと1.0ポイント悪化した。

先行き見通しを示すDI値は、「採算」「業況」が6.0ポイント、「仕入単価」が9.0ポイント改善。「売上」は前月比▲4.0ポイントとなったが、依然として好調を維持している。「従業員」は前月比横這いであり、人手不足感に改善の兆しが見えない。

コメントからは、引き続き人手不足を課題に挙げる事業所は多く、企業活動が制限され、売上機会の損失につながっているケースが多く見受けられた。また、アメリカ大統領選後の日本への影響を不安視する声も寄せられた。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数:Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2023年 11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	2024年 11月
売上	14.0	3.6	▲ 2.9	▲ 3.9	4.9	4.9	7.9	7.4	3.7	4.9	10.8	5.0	2.0
採算	▲ 7.0	▲ 9.0	▲ 10.5	▲ 4.9	6.9	0.0	▲ 1.0	▲ 7.4	▲ 3.7	2.0	▲ 2.9	▲ 8.0	6.0
業況	4.0	3.6	▲ 5.7	1.0	4.9	▲ 2.9	▲ 3.0	▲ 4.6	▲ 0.9	2.9	6.9	▲ 3.0	2.0
仕入単価	▲ 63.0	▲ 71.2	▲ 68.1	▲ 65.7	▲ 67.2	▲ 71.4	▲ 73.8	▲ 75.9	▲ 74.3	▲ 71.1	▲ 70.6	▲ 71.5	▲ 69.0
従業員	39.0	36.0	26.7	39.2	36.3	35.9	32.7	29.6	37.4	34.3	34.3	37.0	38.0

- ・マイナスからプラスに転じたDI値：採算14.0ポイント、業況5.0ポイント
- ・マイナス幅が減少したDI値：仕入単価2.5ポイント
- ・プラス幅が減少したDI値：売上▲3.0ポイント
- ・プラス幅が増加したDI値：従業員1.0ポイント（人手不足局面へ）

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
9月回答	20.6	2.0	6.9	▲ 46.1	30.4
10月回答	13.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 46.0	31.0
11月回答	9.0	1.0	1.0	▲ 37.0	31.0

- ・見通しが改善したDI値：採算6.0ポイント、業況6.0ポイント、仕入単価9.0ポイント
- ・見通しが悪化したDI値：売上▲4.0ポイント
- ・増減のないDI値：従業員±0ポイント

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	設備工事	仕入単価が安定しない状況が続いていることに加え人件費も高騰しているが、顧客離れが生じる恐れがあるため、工費の値上げは難しい。
	管工事	技術者不足が慢性的に生じており受注の確保が難しい。また社員の高齢化もあり、人員の採用ならび将来の担い手育成が急務。
製造業	印刷	アメリカ大統領選が終わり、日本にはどのような影響があるのか。
卸売業	和洋紙製品	借入金利が上昇し資金繰りを切迫させてきている。また、今後仕入単価の上昇が予定されている。
	コピー	値上げによる売上増加は見込めるが、ランニングコストの上昇で純利益は確保しにくい。
小売業	印刷・鑑蔵・雑貨	8月までの業況と違い9月以降は動きが活発になってきた。
サービス業	運輸	アメリカ大統領選挙の結果は、金融市場や貿易、エネルギー政策や安全保障など様々な要因を通じて世界経済に波及するため、先行きについては楽観視できない。
	タクシー	乗務員不足が全体の売上を落とし込み、最低賃金改定が業績の足を引っ張る。
	情報処理サービス	開発案件の引き合いはあっても技術者不足により受託できず、売上増加に繋がられない状況が続いている。